

第12回診断病理サマーフェスト-病理と臨床の対話-
頭頸部腫瘍の病理と臨床 開催報告

石川県立中央病院病理診断科 湊 宏 (第12回診断病理サマーフェスト世話人)

第12回診断病理サマーフェストは、2018年8月18日(土)、19日(日)に東京大学伊藤謝恩ホールにて開催されました。参加申し込みは322名で、ハンドアウトのみの申し込みは3名、出席が298名、欠席4名、キャンセル及び未入金17名でした。一般が215名、研修医・大学院生が77名、細胞検査士が10名でした。今回のテーマは「頭頸部腫瘍の病理と臨床」であり、歯科口腔、鼻咽喉領域、唾液腺領域の三部構成で行いました。普段あまりまとまって話を聞く機会が少ない領域であり、多くの先生方に参加していただき、参加の先生方には興味深かったという意見を多くいただきました。内容に比し時間が短く、多少消化不良になった面もありましたが、アンケートでは、4割の方が「非常に良い」、5割の方が「良い」と評価していただきました。とくに病理医にとっては、普段見聞きすることの少ない手術の方法や手術所見、放射線画像の見方に関して知ることができ、よい機会であったと思います。種々の反省点や指摘された問題もありますが、今後の会の運営に生かしていけたらと思います。とくに会場や演者の都合等で、開催がお盆近くになってしまったことをお詫び申し上げます。最後に、ご参加の皆様、ご講演いただきました諸先生方、サマーフェスト委員の方々、病理学会事務局、当日お手伝いいただきました東大の先生方に感謝申し上げます。

【プログラム】

2018年8月18日(土)

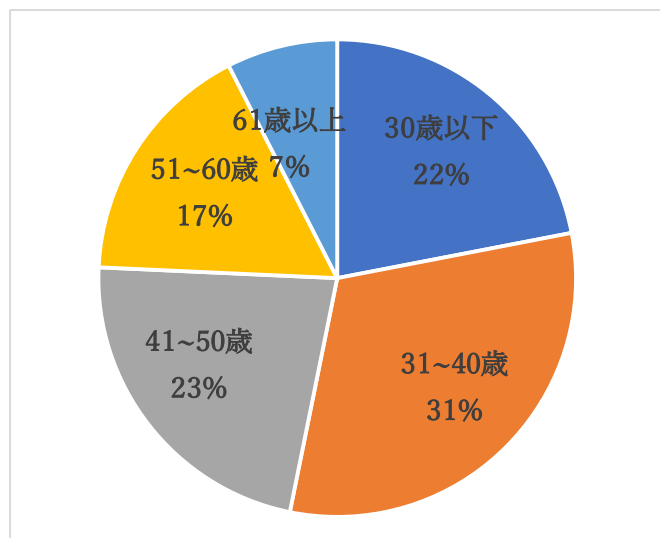
1. 口腔前癌病変と扁平上皮癌(岡山大学口腔病理学 長塚 仁)
2. 歯源性腫瘍の病理(広島大学病院口腔検査センター病理 小川郁子)
3. 口腔領域の細胞診(九州歯科大学口腔病態病理学 矢田直美)
4. 口腔領域の病理診断と治療に関して(金沢医科大学歯科口腔科 石橋浩晃)
5. 鼻副鼻腔腫瘍の病理(石川県立中央病院病理診断科 湊 宏)
6. 咽頭粘膜病変の病理(国立がん研究センター臨床腫瘍病理分野 藤井誠志)
7. 頭頸部領域の画像診断(久留米大学医学部放射線医学 内山雄介)
8. 頭頸部腫瘍(唾液腺を除く)の治療について(神戸大学耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野 丹生健一)

2018年8月19日(日)

9. 唾液腺腫瘍の病理(東京医科大学人体病理学 長尾俊孝)
10. 唾液腺病変の細胞診(沖縄協同病院病理診断科 樋口佳代子)
11. 唾液腺腫瘍の診断ストラテジー(藤田保健衛生大学病理診断学 浦野 誠)
12. 唾液腺腫瘍の外科的および薬物治療について(国際医療福祉大学三田病院頭頸部腫瘍センター 多田雄一郎)

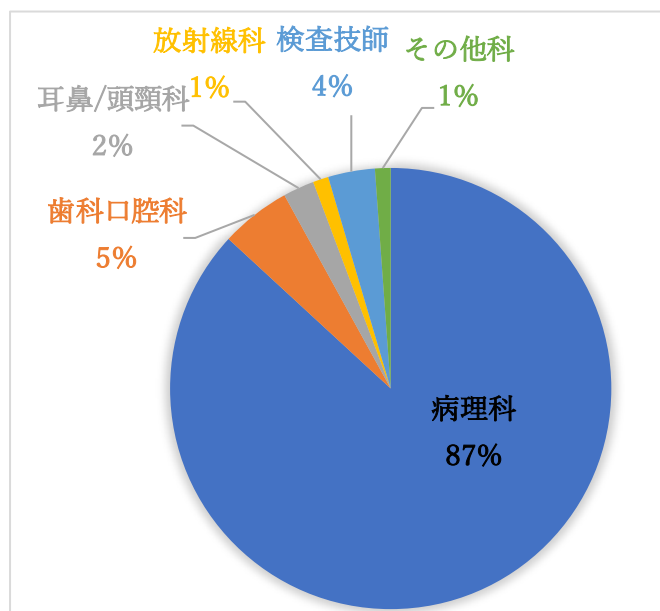
アンケート結果のまとめ

アンケートは 175 名から回答を得た (回収率 59%)。



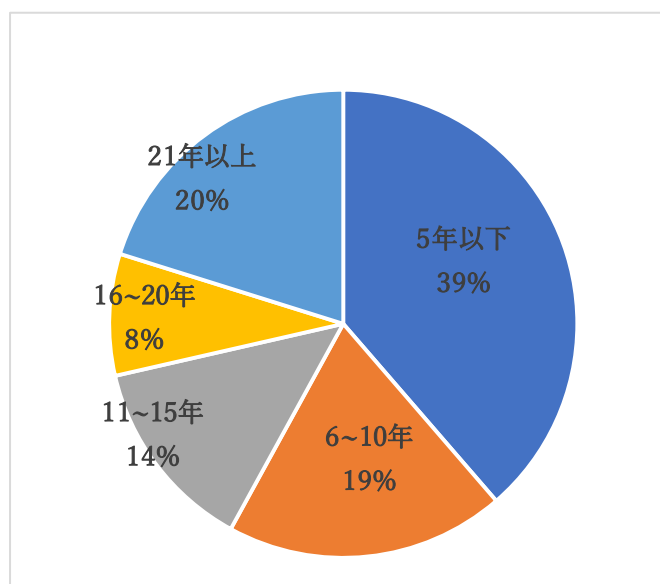
1. 年齢分布

回答者の年齢分布は幅広いが、40歳以下が半数以上であった。男女比は3:2。



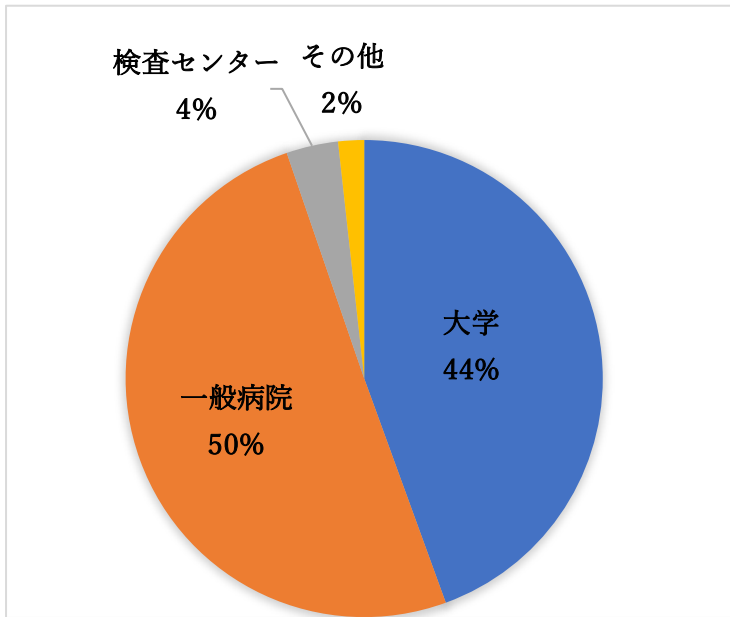
2. 職種別内訳

病理科がほとんどであったが、他科からの参加者も少数認められた。検査技師は全員細胞検査士であった。



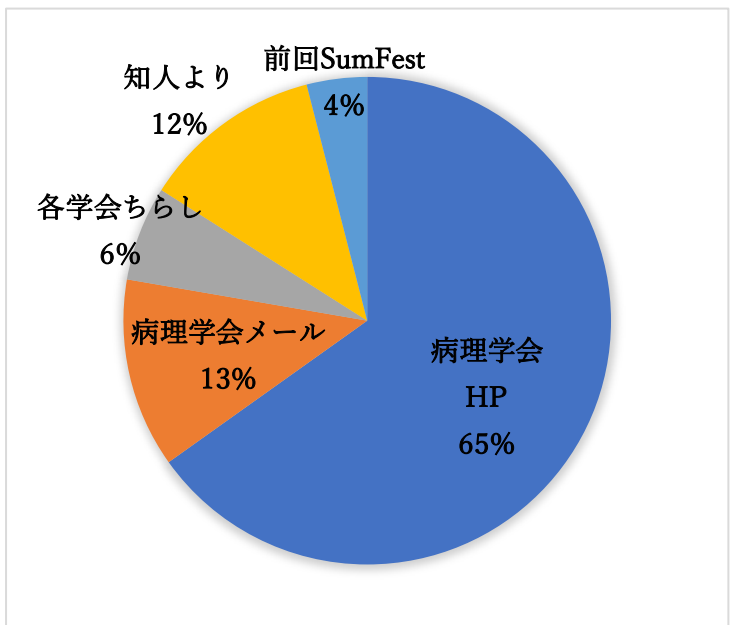
3. 病理経験年数

病理経験年数は5年以下が最も多く、10年以下が58%を占めた。逆に21年以上のベテランも20%を占めていた。専門医:非専門医は7:3であった。



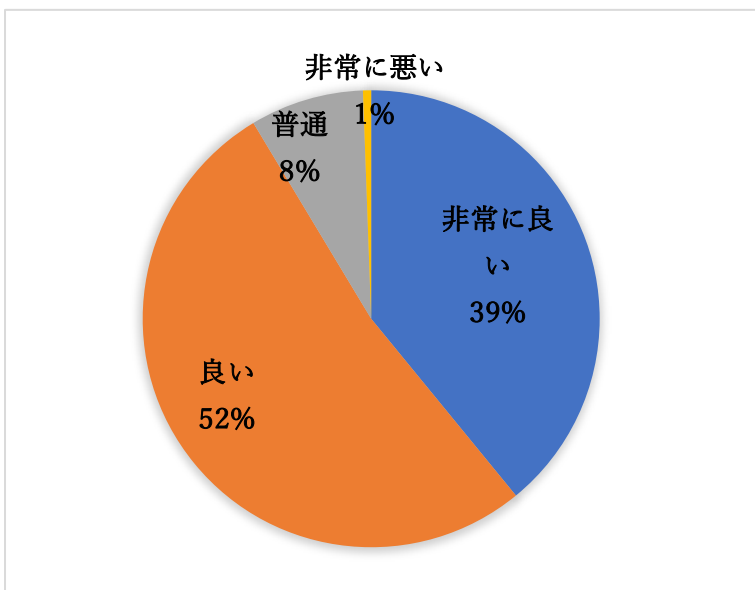
4. 勤務先

勤務先は一般病院が多かったが、大学病院とほぼ拮抗していた。



5. 会情報入手先

会の情報に関しては、病理学会の HP からの入手が最多であったが、病理学会からのメールや各学会におけるチラシによる入手も一定数認められた。前回のサマーフェスト時に知った方も少数みられた。



6. 講演内容について

講演内容に関する評価は種々(下記参照)であったが、「非常に良い+良い」が91%で、概ね良好であった。臨床科や放射線科の講演は引き続き継続すべきと思われるが、それぞれが病理に求めることや病理が臨床に求めること、画像との対比情報などをできるだけ盛り込むようにすべきと感じた。一つの講義時間をどのようにするかは今後の課題である。

以下具体的な回答:

臨床や放射線の先生の話があってよかった。(8)

手術の映像が勉強になった。(2)

治療の話が面白かった。

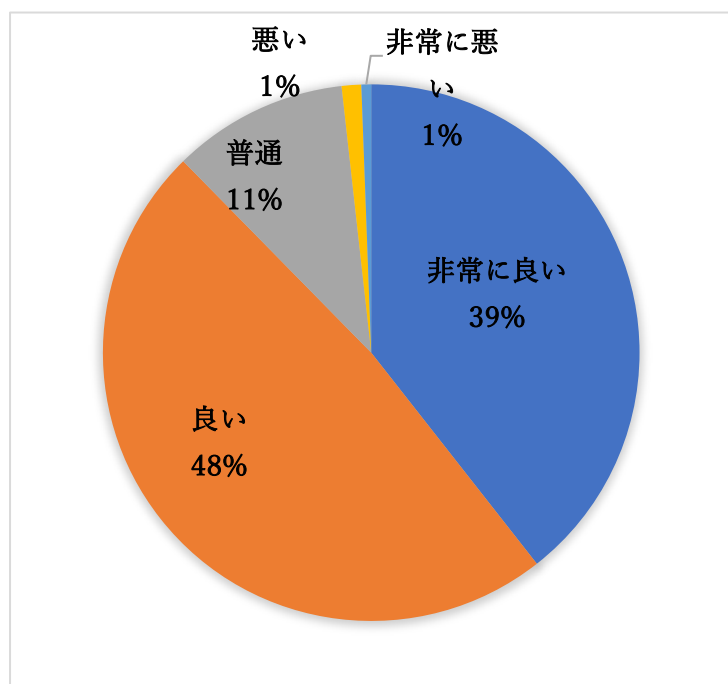
もう少し臨床の講義があればよかった(病理側に求めることなど)。(2)
順序が画像⇒治療⇒病理の方が良い。
病理と画像との対比がもっとあればよい。(2)
病理医にはよかった。

多岐にわたる内容で大変勉強になった。(2)
わかりやすかった。若手にもよくわかる内容でよかった。
普段講義の少ない領域でよかった。
勉強になった。

口腔領域がいまいち。口腔は実践的な内容にしてほしかった。
口腔領域が時間が足りない。
歯源性腫瘍にもっと時間をさいてほしかった。
歯源性腫瘍はとくによかった。
2日目はよかった。

各講師によって異なり、講師ごとのアンケートがあればよい。(4)
聞き取りにくい先生がいた。(2)
スピードが早い。
内容が多すぎる。(5)
講演時間をもう少し長くしてほしい。(3)
時間が足りない。(3)
内容はいいが時間が短い。内容を厳選するか講演時間を長くしてほしい。
1つの講演時間が1時間未満なので聞きやすかった。(3)

細胞診は不要。
実際の診断過程をもっと講義してほしい。(2)
切り出し、断端、報告様式、迅速(2)なども扱ってほしい。
分子学的な最新情報がもう少し欲しかった。



7. ハンドアウトについて
ハンドアウトに関しては、「非常に良い+良い」が87%で、全体的には概ね良好であった。
ただし、発表スライドと異なるスライドが多く含まれた講演者に対するクレームが多かった。
発表内容とスライドはなるべく一致するように心がけたい。また、文字はなるべく大きくすべきであった。今回は費用や個人情報等の問題、活用頻度等の問題からCDを添付しなかったが、デジタルデータの要望が一定数認められた。今後の検討課題としたい。

以下回答：
見やすい。(3)
抄録もあるのが良い。(2)
とても充実している
これまでで最高の出来。
書き込みもしやすい。
発表内容とスライドを一致させてほしい。(17)

PDF(デジタルデータ)もあるといい。(8)

CDがない旨を知らせてほしい。

写真が小さい(2)。スライドを大きくしてほしい。文字を大きくしてほしい(4)。

8. 日程、講演時間、会の進行に関して

日程に関して、1日あるいは2日間での開催をそれぞれ希望されるのは、在住場所に影響されるものと推測される。質問票を入れるというのは一案であるが、どう返答するかは検討が必要。

以下回答：

良い。満足。(12)、全体にスムーズ。

一日での開催を希望。(7)

半日ずつがいい。

日程も参加しやすい。地方からは参加しやすい。

Tightである。(2)

初日12時開始で、終了時間を早めに。2日目休憩時間をなくし、質疑応答に時間を使ってほしい。

トイレが少ないので、休憩時間を長くしてほしい。

お盆の時期を外してほしい。(4)

質問票を入れて、後で回答するような仕組みがあってもよい。

初日に質問したい内容をアンケートで取り翌日に回答してほしい。

もっと参加者との双方向形式ができないか。

9. 会場、設備、料金体系等について

会場に関しては一長一短があり、すべてに満足してもらうのは難しいと感じるが、対処できるものに関しては対処したい。前列を関係者席とすべきではないという意見が1件だけあった。

以下回答：

良い。(8)

机が小さい。(7)

料金は適切。(2)

やや高い(9)。一万円に(2)。

トイレの数が少ない。(2)

冷房が強く寒かった。(4)

冷房をもっと効かしてほしい。

今年は快適。

いい会場です(2)。最高の会場です。申し分ない。東大でお願いしたい。東京が良い。

西日本と東日本で交代でやってほしい。

会場がやや狭い。(7)

スクリーンが小さい。

2日目の開場時間を早くしてほしい。(4)

2日目の開場時間が記載より早かった。

2日目もコーヒーを。

おやつがおいしかった。

携帯が圏外。

前列を関係者席とすべきではない。

10. 今後希望するテーマ

婦人科 10、卵巣腫瘍 1

骨軟部 10

骨髄・網内系 7、リンパ腫 4

乳腺 7

肺 3、肺非腫瘍 2、肺・縦隔 1、縦隔・胸膜 1
脳 1、脳腫瘍 6、神経病理 4
消化管 3、消化管非腫瘍 3
泌尿器 2、腎 2、腎炎 1、尿路上皮腫瘍 1、精巣腫瘍 1
内分泌 5
皮膚 1、皮膚腫瘍 1、皮膚非腫瘍 2
循環器 3、血管炎 1
肝臓 2
頭頸部非腫瘍 1
WHO 分類や規約に変更のあった臓器 2

迅速診断 4
感染症 2
細胞診 2
分子病理診断 2
自己免疫 1
小児腫瘍 1
移植病理 1
免疫染色 1
外科病理 1
原発不明癌 1
希少癌 1

以上